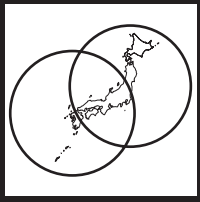
MA0810-B



CASIO

P

3107•3182*JA

取扱説明書

3107・3182

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。
本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。
なお、この説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

●電波時計 …… 17

●ワールドタイム …… 28

●ストップウオッチ …… 30

●タイマー …… 32

●アラーム・時報 …… 34

●ライト点灯 …… 16

●ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方 …… 38

ご使用前に十分に光を当ててください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくために、本書に従って、光が当たるようにしてお使いください。
(充電時間については、「電源について」をご参照ください)

安全上のご注意

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています。
（左の例は感電注意）



⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています。
（左の例は分解禁止）



● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。

※本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。



電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

⚠注意

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

①金属・皮革に対するアレルギー
②時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
③体調不良等

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



⚠注意

ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やケガの予防のため、十分に安全が確認された場所で行なってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計着脱の際に、中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

目次

安全上のご注意 表紙裏面

液晶表示について 5

十分に光を当ててご使用ください 6

操作のしくみと表示の見方 8

モデル別液晶表示について 10

電源について 12

パワーセービング機能について 15

ライト点灯について 16

操作音について 16

操作音の ON ／ OFF 設定 16

電波時計について 17

電波時計とは 17
標準電波 17
電波の受信範囲の目安 18
受信時間について 19
電波受信を行なうときの場所について 19
受信方法について 20
自動受信 20
手動受信 21
受信中の状況表示（レベル表示）について 22
受信日時の確認 23
自動受信 ON ／ OFF の設定 24
受信に関するご注意 25
こんなときには 26

ワールドタイムの使い方 28

都市のサーチ 28
サマータイム（DST）について 29
サマータイムの ON ／ OFF 設定 29
都市コード一覧 29

ストップウオッチの使い方 30

計測のしかた 30
オートスタート機能 31

タイマーの使い方 32

タイマーのセット 32
タイマーの使い方（減算計測のしかた） 33
タイムアップすると 33
鳴っている電子音を止めるには 33

アラーム・時報の使い方 34

アラーム・時報について 34
アラーム時刻のセット 34
アラーム・時報のON／OFF設定 36
鳴っている電子音を止めるには 37
モニターアラーム 37

ホームタイムデータ
（時刻・カレンダー）の合わせ方 38

セットのしかた 38

製品仕様 42
ご使用上の注意 46
お手入れについて 49
本製品で使用している電池について 50

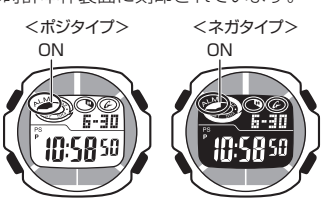
液晶表示について

製品によって、液晶表示が異なります。
なお、本書に記載しているイラストは、視認性を考慮して「白地に黒」で描写しております。ご使用になる製品によっては、本書に記載しているイラストの黒い部分（「時刻」、「機能がONになっているときに点灯するインジケーターやマーク」など）が、「白または他の色で表示される」と置き換えてご覧ください。

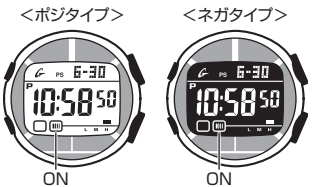
※液晶表示は製品によって決まっているため、1つの製品で表示を切り替えることはできません。

モジュール番号は時計本体裏面に刻印されています。

●モジュール 3107



●モジュール 3182

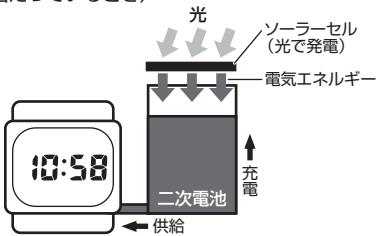


十分に光を当ててご使用ください

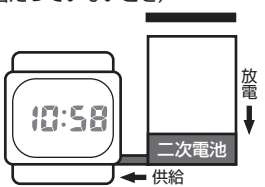
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



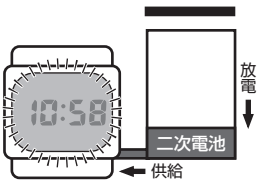
〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは二次電池の電圧低下のため機能が使えなくなります。

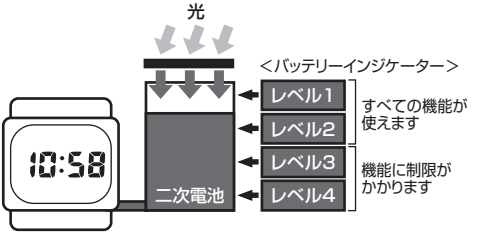
●ライト（表示用照明）をたくさん使うと

ライトを多用すると二次電池の電圧が早く低下します。

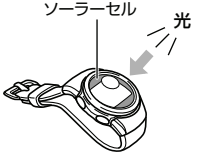


●時計に光が当たるようにしましょう

- 電池残量を示すバッテリーインジケーターがレベル3になると機能に制限がかかりますので、レベル1、レベル2を保つように光を当ててください。

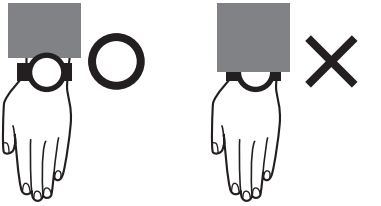


- 腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

- 腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。

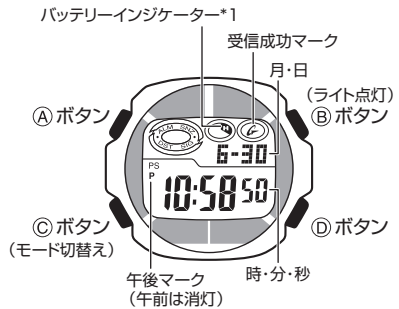


一部でも袖に隠れていると、発電効率が著しく低下します。

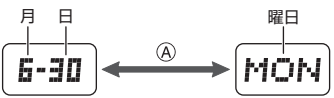
操作のしくみと表示の見方

Ⓒ ボタンを押すごとに、以下の順でモードが切り替わります。
※アラームモードで２～３分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードになります。

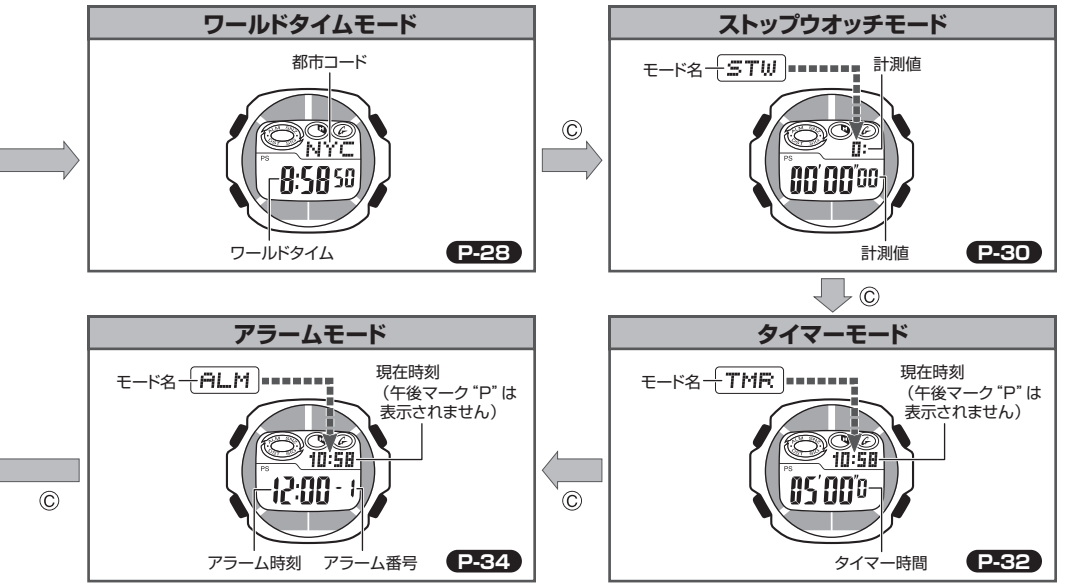
時刻モード



★表示切替えについて
Ⓐ ボタンを押すごとに「月・日」と「曜日」が切り替わって表示されます。



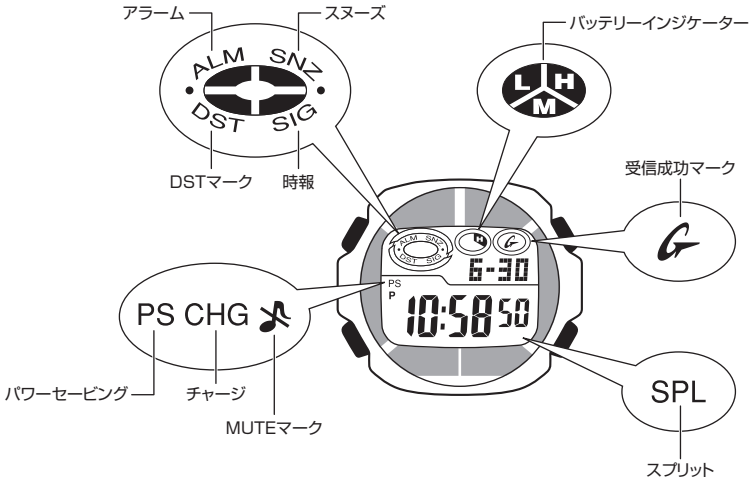
＊1　バッテリーインジケーターの見方については12ページ参照。



各モード名は、モード切り替え直後に表示されます。

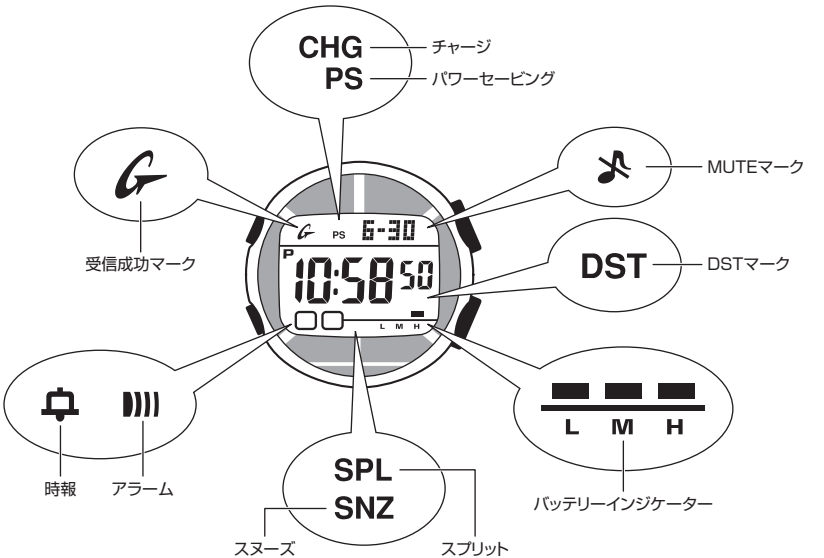
■ モデル別液晶表示について

●モジュール 3107



3107 と 3182 ではマークの形状や位置が異なります。
この取扱説明書では、この「モジュール 3107」液晶表示を使って説明してまいります。

●モジュール 3182


CHG
チャージ
PS
パワーセービング
MUTEマーク
受信成功マーク
DST
DSTマーク
時報
アラーム
SPL
SNZ
スヌーズ
スプリット
L M H
バッテリーインジケーター

電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル5)、メモリーされているデータや設定は消去されます。

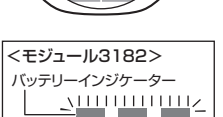
●リカバー状態について

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、バッテリーインジケーター（L/M/H）が点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ELバックライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- タイマーのタイムアップ報音
- 電波受信

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。





●バッテリーインジケーターの見方

	モジュール3107	モジュール3182	
レベル1			すべての機能が使用可能
レベル2			すべての機能が使用可能
レベル3			EL点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、タイマーのタイムアップ報音不可、電波受信不可
レベル4			液晶表示不可、EL点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、タイマーのタイムアップ報音不可、電波受信不可
レベル5			時計機能停止（時計発振不可）

※時刻モードのときにレベル３になると、“LOW”と点滅表示します。
※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池残量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル5になっても再度充電を行なうことで使用できます。
※レベル５から充電したときは、レベル４になると表示が点灯しますので、時刻・カレンダーを合わせてください。ただし、この状態ではその他の機能が使用できませんので、レベル２またはレベル１になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電必要サイン

レベル3や4の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。
また、頻繁にリカバー状態になる場合も電池残量が少なくなっていますので光を当てて充電してください。

●充電時のご注意

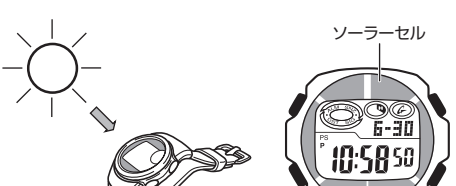
以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

> ⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機はフル充電すると光が当たらなくてもそれぞれ
モジュール3107は、約9ヵ月動き続けます
モジュール3182は、約10ヵ月動き続けます

使用条件
- ライト：1.5秒間／日
- アラーム：10秒／日
- 電波受信：10分／日
- 液晶表示：18時間／日

例えば、よく晴れた屋外で充電すると、5分ほどで1日に必要なエネルギーを得ることができます。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約5分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約24分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

●各レベルに回復するための充電時間

照度の目安	充電時間 レベル5➡レベル4➡レベル3➡レベル2	レベル2➡レベル1
50,000ルクス（晴れた日の屋外など）	約2時間	<3107> 約33時間 / <3182> 約26時間
		<3107> 約9時間 / <3182> 約7時間
10,000ルクス（晴れた日の窓際など）	約6時間	<3107> 約124時間 / <3182> 約127時間
		<3107> 約34時間 / <3182> 約35時間
5,000ルクス（曇り日の窓際など）	<3107> 約9時間 / <3182> 約11時間	<3107> 約201時間 / <3182> 約256時間
		<3107> 約56時間 / <3182> 約71時間
500ルクス（蛍光灯下の室内など）	<3107> 約95時間 / <3182> 約121時間	―――
		―――

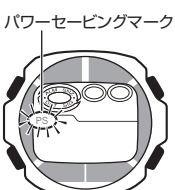
※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

パワーセービング機能について

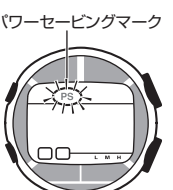
パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
  ➠液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  ※ ストップウオッチモード、タイマーモードのときは、スリープ状態になりません。



<モジュール3107>



<モジュール3182>

- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
  ➠パワーセービングマークが点滅から点灯にかわります。
  アラーム・時報の報音は行ないません。
  電波の自動受信は行ないません。
  ※ 時計機能は正常に作動しています。

●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押します。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに約2秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のON／OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには41ページをご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

ライト点灯について

本機の表示部にはELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも

Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓑ ボタンを押すと約1.5秒間ライトが点灯します。



〈ご注意〉

- 直射日光下ではライト点灯が見えにくくなります。
- ライト点灯中にいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。
- 手動受信中は、ライトは点灯しません。
- ライト点灯中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

操作音について

モード切替え時などに鳴る操作音のON／OFFを切り替えることができます。

■操作音のON／OFF設定

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも

Ⓒ ボタンを約3秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、操作音のON／OFFが切り替わります。

※操作音をOFFにしているときは、MUTEマークが点灯します。

※Ⓒ ボタンを押したときに、モードも切り替わりますので、ご注意ください。

※操作音がOFFでも、アラーム音、時報音、タイマーのタイムアップ音は鳴ります。



MUTEマーク

<モジュール3107>



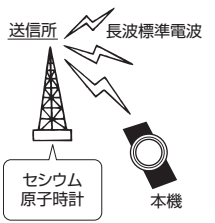
MUTEマーク

<モジュール3182>

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻に修正する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

- 日本の標準電波(JJY)は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が運用しており、福島県の「おおたかどや山標準電波送信所(40kHz)」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所(60kHz)」から送信されています。
- アメリカの標準電波(WWVB)はNational Institute of Standards and Technology(NIST)が運用しており、コロラド州にあるフォートコリンズから送信されています。
- イギリスの標準電波(MSF)はNational Physical Laboratory(NPL)が運用しており、イングランド北部のアンソーンから送信されています。
- ドイツの標準電波(DCF77)はPhysikalisch-Technische Bundesanstalt(PTB)が運用しており、フランクフルト南東に位置するマインフリンゲンから送信されています。

※標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

日本の正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループが運用しております。

この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。

詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

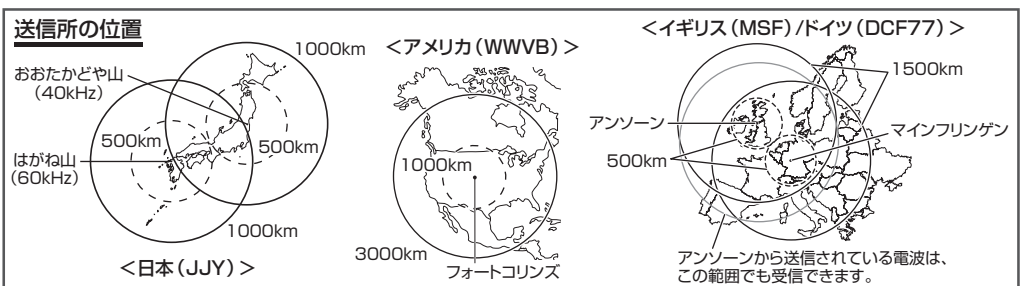
■ 電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると、その都市に対応した標準電波を受信します。

* ホームタイム都市の設定については 38 ページ参照。都市コードについては 29 ページ参照。

ホームタイム都市（受信機能対応都市）	受信電波
TYO、SEL、TPE、BJS、HKG	日本の標準電波（JJY）
HNL、ANC、YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ、YYT	アメリカの標準電波（WWVB）
LIS、LON、MAD、PAR、ROM、BER、STO、ATH、MOW	イギリスの標準電波（MSF）、ドイツの標準電波（DCF77）

※BJS、HKG、HNL、ANC、MOWの各都市は、受信機能対応都市としています。条件が良ければ受信する場合もあります。



●受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。

※受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯（昼・夜）、各種ノイズ

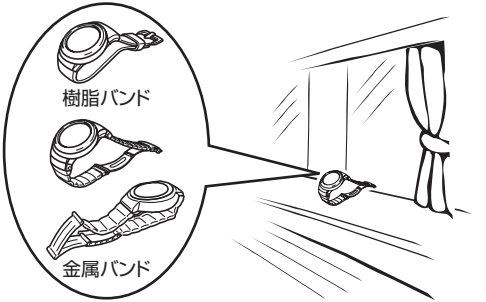
■ 受信時間について

受信時間はおよそ１～７分です。

※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大14分かかる場合があります。

■ 電波受信を行なうときの場所について

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●ご注意

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコン、携帯電話など）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。

●自動受信：１日最大６回
●手動受信：必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます

■自動受信

- 下記の表中の各都市を、ホームタイム都市に設定（38 ページ参照）しているときは、自動受信を行ないます。
  ただし、BJS、HKG、HNL、ANC、MOW の各都市の自動受信の設定は、工場出荷時には OFF になっています。
  *自動受信 ON ／ OFF の設定については 24 ページを参照。
- 時刻モードの時刻（8ページ参照）が下記の表中の自動受信開始時刻になると、1日最大6回、自動的に受信を行ないます。
  ただし、１日１回受信が成功すれば、それ以降、その日の自動受信は行ないません。
  また、自動受信開始時刻は、設定したホームタイム都市やサマータイム設定によって異なります。

ホームタイム都市		自動受信開始時刻					
		1	2	3	4	5	6
TYO、SEL、TPE、BJS、HKG	通常時刻	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
HNL、ANC、YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ、YYT	通常時刻	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
	サマータイム						
LIS、LON	通常時刻	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時
	サマータイム	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
MAD、PAR、ROM、BER、STO	通常時刻	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
	サマータイム	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
ATH	通常時刻	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
	サマータイム	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時
MOW	通常時刻	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時
	サマータイム	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時	午前4時

★自動受信を行なう前に

- 8ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓒボタンを押し、時刻モードまたはワールドタイムモードにします。
- 20ページの表中の「自動受信開始時刻」前に、19ページの「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置きます。

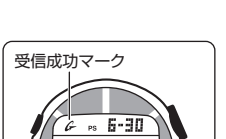
★受信に成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻モードに戻って修正した時刻を表示します。

※受信成功マークが点灯します。



<モジュール3107>



<モジュール3182>

★受信に失敗すると

時刻修正せずに、時刻モードの表示に戻ります。

■手動受信

- 必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます。受信に適した場所や環境（19ページ参照）で行なってください。
  また、受信中は時計を動かさないでください。

★手動受信を行なう前に

- 8ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓒボタンを押し、時刻モードにします。

★手動受信を行なう

時刻モードのとき

Ⓓボタンを約2秒間押し続けます

➡"RC!"が表示され、受信を開始します。

※受信中は、受信状態のレベルを表示（22ページ参照）します。



受信状態レベル

★受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※手動受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、修正日時を表示します。

※修正日時表示後は、Ⓓ ボタンを押すか、2～3分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

※受信成功マークが点灯します。



<モジュール3107>



<モジュール3182>

★受信が失敗すると（ERR 表示）

時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。

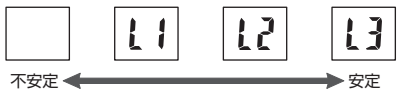
※“ERR”表示後は、Ⓓ ボタンを押すか、2～3分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

※その日に一度でも受信に成功している場合は、受信成功マークが点灯したままになります。

■ 受信中の状況表示(レベル表示)について

受信中は受信状態によってレベル表示が変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

- 受信状態のレベル表示は、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- 天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

■受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。

※一度も受信に成功しなかったときは、“- - : - -” を表示します。

※時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓓ ボタンを押します。

※2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。



■ 自動受信 ON ／ OFF の設定

自動受信をOFFにすると、電波の自動受信をさせなくすることができます。

※ホームタイム都市を受信機能対応都市に設定している場合に、自動受信ON／OFFの設定を行なうことができます。

* 受信機能対応都市については、18 ページ参照。

1. 受信日時を表示させる

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➟受信日時を表示します。

※ 2 ～ 3 分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。

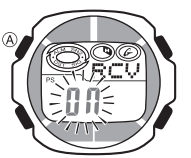


2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 2 秒間押し続けます

➟ON または OFF が点滅します。

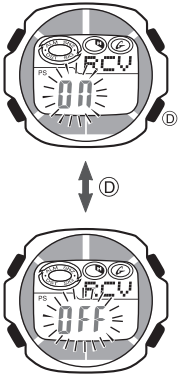
※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。



3. セットする

Ⓓ ボタンを押します

➟ON と OFF が切り替わります。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➟点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。

※ 時刻モードに戻すには、Ⓓ ボタンを押します。



★自動受信をONにすると…

● ホームタイム都市がTYO、SEL、TPE、BJS、HKGの場合
自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

●ホームタイム都市がHNL、ANC、YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ、YYTの場合
自動受信はONになり、アメリカのフォートコリンズからの電波を受信します。

●ホームタイム都市がLIS、LON、MAD、PAR、ROM、BER、STO、ATH、MOWの場合
自動受信はONになり、イギリスのアンソーンとドイツのマインフリンゲンからの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。

●以下のときは、電波受信を行ないません。
・ホームタイム都市が受信機能対応都市以外のとき。
・タイマー計測中のとき。
・バッテリーレベルがレベル3または4のとき。
・リカバー状態のとき。

●自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●本機は日本、アメリカ、イギリス、ドイツで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行なわないときは、製品仕様に記載の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。

●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できないのですが？

- 電波の送信が中断していませんか。
  電波時計が利用している標準電波は、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。
- 電波が受信できない地域にいませんか。
  電波受信ができる地域は、18ページの「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。
- 電波受信環境が悪い場所にいませんか。
  電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください（19ページの「電波受信を行なうときの場所について」参照）。
- ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。
  ホームタイム都市の設定が18ページの「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、電波受信を行ないません。38ページの「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。
- 自動受信設定がOFFになっていませんか。
  24ページの「自動受信ON／OFFの設定」をご覧になり、自動受信設定をONに設定してください。
- タイマーが計測中になっていませんか。
  タイマー計測中は電波受信を行ないません。計測をストップするには、タイマーモードのときにⒹボタンを押します。
- 自動受信を行なう時間帯（20ページ参照）に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんでしたか。
  自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれるのですが？

- 電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいるのですが？

- サマータイムの設定がONになっていませんか。38ページの「セットのしかた」をご覧になり、サマータイムの設定をOFFまたはAUTOにしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっているのですが？

- ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。38ページの「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

5. 自動受信 ON／OFF の設定ができないのですが？

●ホームタイム都市の設定が18ページの「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、自動受信 ON／OFF の設定を行なうことができません。38 ページの「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

6. 自動受信は何時頃行なわれるのですか？

●自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます（20ページ参照）。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください（19ページ参照）。

7. 手動受信のしかたは？

●時刻モードのときにⒹボタン（右下）を約2秒間押し続けます。"RC!" が表示され手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください（21ページ参照）。

8. 受信日時の確認のしかたは？

●時刻モードのときにⒹボタン（右下）を1回押します。電波受信が成功し、時刻修正された月日と時分が表示されます。時刻モードに戻すには、もう一度Ⓓボタンを1回押します（23ページ参照）。

★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。

※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

自動受信		自動受信する
ホームタイム都市		東京
サマータイム		電波受信による自動切替え

ワールドタイムの使い方

8ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界48都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムは、基本時刻との時差にしたがい他の都市の時刻が自動的にセットされます。
※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。

■ご注意■
ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。
* セットについては 38 ページ参照。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが切り替わります。
※Ⓓ ボタンを押し続けると早送りします。



■サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓓボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

➡Ⓐボタンを約2秒間押し続けるごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。

※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。

※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。

※ホームタイムで設定している都市をサマータイムONにしたときは、ホームタイム（基本時刻）もサマータイムONになります。



<モジュール3107>



<モジュール3182>

■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
PPG	−11	パゴパゴ	STO	+1	ストックホルム
HNL	−10	ホノルル	ATH	+2	アテネ
ANC	−9	アンカレジ	CAI	+2	カイロ
YVR	−8	バンクーバー	JRS	+2	エルサレム
LAX	−8	ロサンゼルス	MOW	+3	モスクワ
YEA	−7	エドモントン	JED	+3	ジェッダ
DEN	−7	デンバー	THR	+3.5	テヘラン
MEX	−6	メキシコシティ	DXB	+4	ドバイ
YWG	−6	ウィニペグ	KBL	+4.5	カブール
CHI	−6	シカゴ	KHI	+5	カラチ
MIA	−5	マイアミ	DEL	+5.5	デリー
YTO	−5	トロント	DAC	+6	ダッカ
NYC	−5	ニューヨーク	RGN	+6.5	ヤンゴン
CCS*	−4	カラカス	BKK	+7	バンコク
YHZ	−4	ハリファックス	HKG	+8	香港
YYT	−3.5	セントジョンズ	BJS	+8	北京
RIO	−3	リオデジャネイロ	TPE	+8	台北
RAI	−1	プライア	SEL	+9	ソウル
LIS	+0	リスボン	TYO	+9	東京
LON	+0	ロンドン	ADL	+9.5	アデレード
MAD	+1	マドリード	GUM	+10	グアム
PAR	+1	パリ	SYD	+10	シドニー
ROM	+1	ローマ	NOU	+11	ヌーメア
BER	+1	ベルリン	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2007年6月現在作成のものです。

※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

※2007年12月にCCS(カラカス)の時差が「−4.5」に変更になっていますが、本機では対応しておりません。「時差−4の地域」としてご使用ください。

ストップウオッチの使い方

8ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

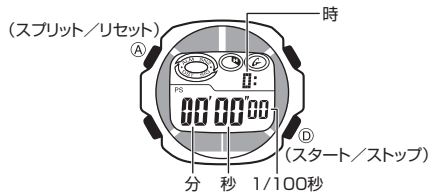
ストップウオッチは1/100秒単位で999時間59分59秒99（1000時間計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。
また、スタートの5秒前からカウントダウンを開始するオートスタート機能もあります。

■計測のしかた

ストップウオッチモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡ Ⓓボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



★計測中にⒶボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります（スプリットマーク“SPL”点灯）。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
★計測終了後Ⓐボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。

●通常計測

Ⓓ スタート ➡ Ⓓ ストップ ➡ Ⓐ リセット

＜積算計測＞
ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずにⒹボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ → Ⓐ → Ⓐ → Ⓓ → Ⓐ
スタート　スプリット　スプリット解除　ストップ　リセット

<スプリット表示中>



●1・2着同時計測

Ⓓ → Ⓐ → Ⓓ → Ⓐ → Ⓐ
スタート　1着ゴール（1着タイム表示）　2着ゴール　2着タイム表示　リセット

■オートスタート機能

オートスタート機能とは、スタート（計測開始）の5秒前からカウントダウンを開始し、3秒前から1秒ごとに電子音で報知するものです。

●オートスタート表示にするには

計測リセット状態のとき

Ⓐ ボタンを押します

➠Ⓐ ボタンを押すごとに通常表示とオートスタート表示とが切り替わります。

※オートスタート表示にすると、カウントダウン秒数が表示されます。

<オートスタート表示>



●オートスタートで計測を開始する

オートスタート表示のとき

Ⓓ ボタンを押します

➠5秒前からのカウントダウンを始めます。3秒前からは1秒ごとに電子音が鳴ります。

※カウントダウン中、すぐに計測を始めるときは、Ⓓ ボタンを押します。

※計測開始後は、通常のストップウオッチのボタン操作と同じです。

※計測を終了してリセットをすると、オートスタートも解除されます。

タイマーの使い方

8ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマーは1分単位で60分までセットできます。セットした時間を経過（タイムアップ）すると10秒間の電子音が鳴ります。

■ タイマーのセット

1. セット状態にする

タイマーモード（計測リセット状態）のとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

➡「分」が点滅します。

※ セット状態で2〜3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。



2. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡ Ⓓ ボタンを押すごとに1分ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。

※ 1分単位で60分(60'00")までセットできます。

3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡ 点滅が止まり、セット完了です。

■ タイマーの使い方(減算計測のしかた)

Ⓓ ボタンを押します

➟ Ⓓボタンを押すごとにタイマーがスタート／ストップします。

※タイマーは 1/10 秒単位です。



★タイマーを止めてから Ⓐ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります。
★一時的に止めるときは Ⓓ ボタンを押します。続けて再び Ⓓ ボタンを押すと、表示タイムに引き続きタイマーを再開します。

■ タイムアップすると

10 秒間電子音が鳴ります。

■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

アラーム・時報の使い方

8ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、アラームモードに切り替えます。

■ アラーム・時報について

●通常アラーム（アラーム 1 ～アラーム 5）

アラームは 5 本設定できます。
設定した時刻になると 10 秒間の電子音が鳴ります。

●スヌーズアラーム（アラーム 1 のみ）

アラーム 1 はスヌーズアラームとしてもお使い頂けます。スヌーズアラームは音を止めても繰り返し鳴るアラームです。本機のスヌーズアラームは 10 秒間の電子音を 5 分ごとに 7 回繰り返します。

●時報

毎正時（00 分のとき）に“ピッピッ”と電子音を鳴らすことができます。

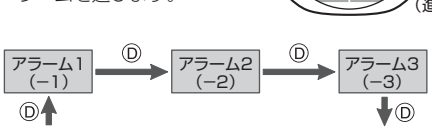
■ アラーム時刻のセット

1. アラームを選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに表示が以下の順で切り替わります。セットしたいアラームを選びます。





2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 2 秒間押し続けます

➡「時」が点滅します。

※ アラームマークが点灯し、自動的にアラーム ON になります。

※ アラーム 1 で、スヌーズ機能が ON になっているときにセット状態にすると、自動的にスヌーズ機能は OFF になります。

※ セット状態で2〜3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。



<モジュール3107>



<モジュール3182>

3. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

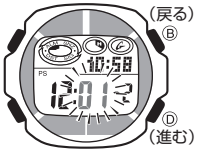
➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



4. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。



※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）、または 24 時間制にご注意ください。

手順 *3.* と *4.* の操作を繰り返して、アラーム時刻をセットします。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

■ アラーム・時報のON／OFF設定

準備：Ⓓ ボタンを押して、設定したいアラームまたは時報表示を選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡Ⓐ ボタンを押すごとに、以下のようにアラーム・時報のON／OFF が切り替わります。

※それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。

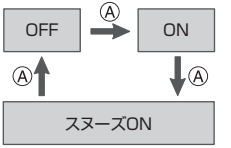
<アラーム表示>



アラームマーク
<モジュール3107>



●アラーム 1





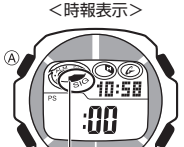
<モジュール3107>



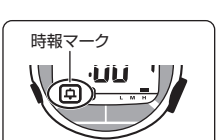
●アラーム２～５、時報



<時報表示>



時報マーク
<モジュール3107>



<モジュール3182>

■鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

※スヌーズアラーム機能中のときは、約5分後に再び鳴り出します（スヌーズ中はスヌーズONマークが点滅します）。

※スヌーズアラーム機能中のときに以下の操作を行ないますと、スヌーズアラーム機能が中断されます。

- ●アラームモードでアラーム１をOFFにしたり、通常のアラームに切り替えたとき。
- ●アラームモードでアラーム1をセット状態にしたとき。
- ●時刻モードで時刻セット状態にしたとき。

■モニターアラーム

アラームモードでⒹ ボタンを押し続けると、押している間、電子音が鳴ります。

ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等を合わせることです。
正しい都市コードをセットすることで、電波の情報から正確な日時が設定されます。なお、日時は手でセットすることもできます。

※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。

※パワーセービング機能のON／OFF設定も以下の操作で行ないます。

■ セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます

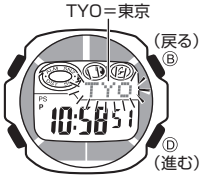


➡都市コードが点滅します。

※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

2. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓまたは Ⓑボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに次の都市コード * が表示され、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域（都市）をお選びください。

* 29 ページ「都市コード一覧」参照。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。

3. 「サマータイム設定」にする

Ⓒ ボタンを押します



➡サマータイムの切替えになります。

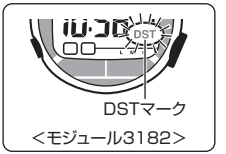
4. サマータイムを設定する

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



<モジュール3107>



<モジュール3182>

●AT（AUTO） 電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。
●OFF サマータイムはOFFになります（通常時間）。
●ON サマータイムはONになります（夏時間）。 ※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。

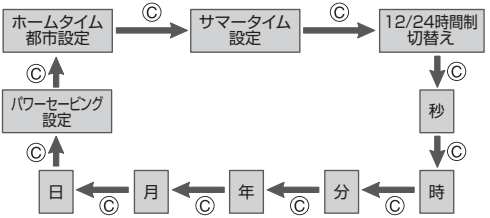
※ホームタイム都市が受信機能対応都市（18ページ参照）以外のときは、「OFF」⇔「ON」で表示が切り替わります。

5. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動します。設定したい箇所を点滅させます。





6. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ または Ⓑ ボタンで点滅箇所をセットします。

a.「12/24 時間制切替え」のときは…

Ⓓ ボタンを押すごとに 12 時間制表示“12H”と 24 時間制表示“24H”が切り替わります。



b.「秒」セットのときは…

Ⓓ ボタンを押すと「00 秒」からスタートします。

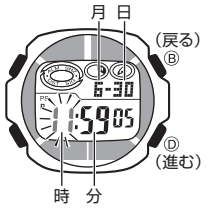
※秒が 00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30～59のときは 1分繰り上がって「00秒」になります。(時報は「時報サービス 117 番」が便利です)



c.「時」「分」「年」「月」「日」セットのときは…

Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。



※「時」のセットのとき、午前／午後（P）または 24 時間制にご注意ください。

※「年」は2000年～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

Ⓒ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

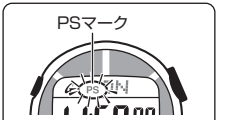
d.「パワーセービング設定」のときは…

Ⓓ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON／OFFが切り替わります。

※パワーセービング機能をONにすると、セット完了後、パワーセービングマークが点灯します。



<モジュール3107>



<モジュール3182>

7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➠点滅が止まり、セット完了です。

製品仕様

水晶発振周波数: 32,768Hz
精　　度: 電波受信による時刻修正が行なえない場合は、平均月差±30秒以内
基本機能: 時·分·秒、
午前／午後(P)／24時間制表示、
月·日·曜日
フルオートカレンダー(2000~2099年)
電波時計機能: 自動受信·手動受信
受信日時確認機能
サマータイム自動切替え
受信局自動選択機能(JJY、MSF／DCF77で対応)
受信電波＝
コールサイン: JJY(40kHz/60kHz)、
WWVB(60kHz)、
MSF(60kHz)、
DCF77(77.5kHz)
ワールドタイム機能: 世界48都市(29タイムゾーン)の時刻を表示、サマータイム設定機能
ストップウオッチ機能: 計測単位＝1/100秒
計測範囲＝999時間59分59秒99
(1000時間計)
計測機能＝通常計測、積算計測、
スプリット計測、
1·2着同時計測、
オートスタート機能
タイマー機能: セット単位＝1分　計測範囲＝60分
計測単位＝1/10秒　電子音＝10秒
アラーム機能: 時刻アラーム　5本
セット単位＝時·分
電子音＝10秒間
アラーム1はスヌーズ切替え可
時報　毎正時に2回電子音で報知
その他: 自動復帰機能、12/24時間制表示切替え、ELバックライト、モニターアラーム、操作音ON／OFF切替え、パワーセービング機能、バッテリーインジケーター表示、受信成功マーク
主要回路素子: 音叉型高性能水晶振動子
ワンチップCMOS-LSI
使用電池: 二次電池
持続時間: モジュール3107:約9ヵ月
モジュール3182:約10ヵ月
(光に当てないで、1日あたり電子音10秒間、ライト1.5秒間、電波受信10分間、表示点灯18時間使用した場合)


memo


memo


memo

ご使用上の注意

■防水性

● 防水時計は時計の表面または裏蓋に「WATER RESIST」「WATER RESISTANT」と表示されているもので、次のように分類されます。

		日常生活用防水	日常生活用強化防水		
			5気圧防水	10気圧防水	20気圧防水
表示	時計の表面または裏蓋に表記	「BAR」表記無し	5BAR	10BAR	20BAR
使用例	洗顔、雨	○	○	○	○
	水仕事、水泳	×	○	○	○
	ウインドサーフィン	×	×	○	○
	スキンダイビング(素潜り)	×	×	○	○

※ 専門的な潜水＝スキューバダイビング（空気ボンベ使用）でのご使用はお避けください。

● 時計の表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANTと表示されていないものは防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

● 防水構造の機種でも水中や、水分のついたまま、りゅうずやボタンの操作をしないでください。

● 防水構造の機種でも、時計をつけたままの入浴、洗剤等（石鹸・シャンプーなど）のご使用をお避けください。防水性能を低下させる原因となります。

● 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。

● 防水性を保つために定期的（2～3年を目安）なパッキン交換をおすすめします。

● 電池交換の際、防水試験を行ないますので、必ずお買い上げ店あるいは最寄りのカシオテクノ修理相談窓口にお申し付けください（特殊な工具を必要とします）。

● 防水時計の一部にデザイン上、皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

● 時計が急冷された場合など、ガラスの内側が曇ることがありますが、すぐに曇りが無くなるようであれば特に問題はありません。曇りが消えなかったり、水が時計内部に浸入した場合は、そのままご使用にならず、ただちに修理することが必要です。

● 時計内部に浸入した水は、電子部品や機械、文字板などを破損する原因となります。

■バンド

● バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。

● バンドは劣化やさび（錆）などにより切れたり外れたりする場合があり、時計の落下や紛失の原因となります。バンドは、常にお手入れしていただき、清潔にご使用ください。
バンドに弾力性がなくなったり、ひび割れ・変色・緩みなどがある場合は、お早めに点検・修理（有償）または新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオテクノ修理相談窓口にバンド交換（有償）をお申し付けください。

■温度

- 自動車のダッシュボードや暖房器具の近く等の高温になる場所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったり、故障の原因となります。
- ＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。液晶表示は、0℃以下や＋40℃以上では、表示が見えにくくなることがあります。

■ショック

- 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。
  ただし、耐衝撃構造の時計の場合（G-SHOCK/Baby-G/G-ms）は腕につけたままでチェーンソーなどの強い振動や、激しいスポーツ（モトクロスなど）でのショックを受けても時計には影響ありません。

■磁気

- 通常、磁気の影響はありませんが、極度に強い磁気（医療機器など）は誤動作や電子部品を破損する恐れがありますのでお避けください。

■静電気

- 静電気により誤った時刻を表示したりします。また、極度に強い静電気は、電子部品を破損する恐れがあります。
- 静電気により、一時的に液晶の点灯していない部分ににじみ現象が発生することがあります。

■薬品類

- シンナー、ガソリン、各種溶剤、油脂またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類等が付着すると、樹脂ケース、樹脂バンド、皮革などに変色や破損を生することがありますのでご注意ください。

■保管

- 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■樹脂製品について

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が樹脂製品に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま放置すると色あせする場合があります。
- 塗装部品は、使用状況（過度の外力、連続したこすれ、衝撃等）により磨耗し色落ちしたりすることがあります。
- バンドにプリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。
- 蛍光商品は、長時間濡れたままにしておくと色が落ちる恐れがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
- スケルトン（透明）仕様の部品は、汗や汚れ等の吸収や高温多湿への放置により変色を起こすことがあります。
- 樹脂部品の交換は、最寄りのカシオテクノ修理相談窓口にお申し付けください。有償にて申し受けます。

■天然皮革・合成皮革バンドについて

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が天然皮革や合成皮革に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま長時間放置すると色あせする場合があります。

ご注意：天然皮革・合成皮革は、摩擦・汚れにより色を移したり、色落ちすることがあります。

■金属製品について

- 金属を使用した製品・バンドは、ステンレスやメッキ品でも汚れたままご使用になりますと、さび（錆）が発生することがあります。汗をかいたときや水に濡らしたときは、柔らかい吸湿性の良い布などで良く拭き取った後に、通気性の良い場所に保管し、良く乾燥させてください。
- バンドは、時々、柔らかい歯ブラシなどにより、中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水でバンドを洗って、良く手入れをしてください。このとき、時計の本体にかからないようご注意ください。

■抗菌防臭バンドについて

- 抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

■液晶表示について

- 液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなることがあります。

万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

■お手入れのしかた

- ケース･バンドは汚れからさびが発生し、衣服の袖口を汚したり、皮膚がかぶれたり時計の性能が劣化することがあります。ケース･バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとさび易くなります。
- 樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また布等で簡単にふきとることができます。
- 皮革バンドは乾いた布で軽く拭くなどして常に清潔にしてご使用ください。樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。
- バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオテクノ修理相談窓口にバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても有償にて申し受けます。
- 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗･水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。

■お手入れを怠ると

〈さび（錆）〉

- 時計で使用している金属はさびにくい性質ですが、汚れによりさびが発生します。
  ※汚れにより酸素が絶たれると、表面の酸化皮膜が維持できなくなり、さびが発生します。
- 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやさびがしみ出して、衣類の袖を汚したり、皮膚がかぶれたり、時計の性能が劣化することがあります。

〈劣化〉

- 樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に放置すると経年劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

〈かぶれ〉

- 皮膚の弱い方や体調により、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

本製品で使用している電池について

- 専用の二次電池を使用しておりますので、お客様は電池を取り外さないでください。専用の二次電池以外の電池を入れると時計の破損の原因になります。
- 二次電池は、ソーラーセルが受ける光により充電されますので、定期的な電池交換の必要はありません。ただし、長年の充電と放電を繰り返すことにより性能が劣化して、充電しても使用時間が短くなることがあります。その場合は、お買い上げ店またはカシオテクノ修理相談窓口にご相談ください。